

文化庁委託事業

令和 4 年度

劇場・音楽堂等基盤整備事業

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
実施報告書



公益社団法人全国公立文化施設協会

文化庁委託事業 令和 4 年度「劇場・音楽堂等基盤整備事業」
地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会 実施報告書 目次

事業概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
北海道地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
東北地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
関東甲信越静地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
東海北陸地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
中四国地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
九州地域 研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・	24

近畿地域は「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会 実施報告書」をご覧ください。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会 事業概要

事業の目的

劇場・音楽堂等の活性化、地域の文化芸術の振興等を目的としたアートマネジメントや劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門的知識・技術の取得に関する研修会を実施し、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を図る。

○舞台技術研修会

各地域において、劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門知識や技術の習得を図るため、舞台技術者を対象とした舞台技術研修会を実施する。

対象者

- ① 劇場・音楽堂等に勤務する職員（指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運営業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む）
- ② 地方自治体の文化芸術行政担当職員及び劇場・音楽堂等施設関係者
- ③ 民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術やアートマネジメントの教育関係者・学生等、また関心のある市民等。

実施期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日

実施日、会場、参加者数

地域名	開催日	会場	参加者数
北海道	令和4年11月9日(水)～10日(木)	あさひサンライズホール	14名 9施設
東北	令和5年3月9日(木)	[オンライン開催] あきた芸術劇場(ミルハス)	46名 26施設
関東甲信越静	令和5年2月2日(水)	埼玉会館	79名 54施設
東海北陸	令和5年1月26日(木)～27日(金)	石川県こまつ芸術劇場うらら	34名 18施設
近畿※	令和5年2月8日(水)～9日(木)	兵庫県立芸術文化センター	-名 -施設
中四国	令和5年1月19日(木)～20日(金)	鳥取県立倉吉未来中心	54名 24施設
九州	令和4年12月8日(木)～9日(金)	石橋文化センター	39名 20施設

※アートマネジメント・舞台技術合同研修会

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（北海道地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（北海道地域）
趣旨	劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	令和4年11月9日（水）～11月10日（木）
会場	あさひサンライズホール 所在地 〒095-0401 北海道士別市朝日町中央4038 電話 0165-28-3146
問合せ先 （事務局担当施設）	北海道立道民活動センター（かでる2・7） 電話 011-522-5156
参加人数	14名（参加施設 9施設）

研修日程・内容			
日時	内容	講師	
11/9 （水）	13:15～ 13:30	開講式	ステージマインド(株) 代表 梶野 泰範 氏 フリーランスエンジニア 金沢 琢司 氏
	13:30～ 17:30	プログラムⅠ コンサートミキシングとメモレコーディング の実際①	
11/10 （木）	9:00～ 11:30	プログラムⅡ コンサートミキシングとメモレコーディング の実際②	○演奏 高野 雅絵 氏（ボーカル） 町田 拓哉 氏（ギター） 山下 ヤスシ 氏（ピアノ）
	11:30～ 11:45	閉講式	

研修会記録

1 はじめに

劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。

2 研修内容

プログラムI コンサートミキシングとメモレコーディングの実際①

講師 梶野 泰範 氏 (ステージマインド株式会社 代表)

金沢 琢司 氏 (フリーランスエンジニア)

演奏者 高野 雅絵 氏 (ボーカル) 町田 拓哉 氏 (ギター) 山下 ヤスシ 氏 (ピアノ)

- ミキシング班、レコーディング班に分かれて、各参加者の業務内容や所属館の機材などの聞き取り。

【ミキシング班】

調整卓の操作やスピーカーの調整、マイクの調整等について講師からの説明の後、実際にステージ上の仕込みや調整を実践した後、アーティスト立会いのもと、各機材の調整を行い、その後アーティストが演奏しながら、いろいろなパターンの調整について講師からの解説を行った。

また、生音とPA有の際の音の違いを聞き比べたり、これまでの研修を踏まえて実際に研修生がオペレートを行った。

【レコーディング班】

機材の特性等の説明を行い、ステージ上の仕込みを行った後、ミキサーの操作やイコライザー・リバーブ・コンプレッサー等について講師から実践を交えて解説を行った。その後、実際にアーティストの演奏を録音しながら楽器・マイクの音の



ミキシング班



レコーディング班

確認、音作り等を講師が実践しながら解説を行った。

プログラムⅡ コンサートミキシングとメモレコーディングの実際②

講師 梶野 泰範 氏 (ステージマインド株式会社 代表)

金沢 琢司 氏 (フリーランスエンジニア)

演奏者 高野 雅絵 氏 (ボーカル) 町田 拓哉 氏 (ギター) 山下 ヤスシ 氏 (ピアノ)

- 参加者が持参したチェック用の音源を聞き、各音源の特徴などの解説。
- 前日に引き続き、アーティストによる生演奏を行いながら、研修生によるオペレートを実践した。
- レコーディング班はミキシング班のオペレートしたものを実際にレコーディングした。
- 後半でミキシング班、レコーディング班を入れ替えしてどのようなことを行っていたか、違う目線で確認を行った。

3 研修を終えて

① 事業評価

今回はミキシングとレコーディングにスポットをあてた研修となったが、講師の豊富な経験、知識、技術をもとに研修を実施していただき、アンケートの回答からも参加者にとって非常に有意義な研修となったと感じた。

また、開催館の協力で色々な種類・珍しいマイクを使用したり、実際にアーティストに生で同じ曲を演奏していただきながら、オペレートやレコーディングを実践できる機会はなかなかないと思うので、とても貴重な機会であり、有意義な研修になったのではないかと感じた。

② 当研修会の意義

アンケートなどでも、今後の業務において改善できることがあったり、これまでと違う視点を得た等、回答があったことから、参加者各自のスキルアップにより、利用者等に対して、今後より良い音響を提供できることと感じた。

③ 今後の課題について

参加者からも高評価の研修であったことから、今後も参加して良かったと思える有意義な研修を行なっていきたい。

また、一部の参加者からは、少し自分にはレベルが高かったとの声もあったので、知識・技術

のレベルに応じた研修や、事前告知の方法をもっと工夫していきたい。



アーティストを交えての調整風景



アーティスト演奏



支部長挨拶

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東北地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東北地域）
趣旨	劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	令和5年3月9日（木）
会場	[オンライン] あきた芸術劇場ミルハス 所在地 〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町 2-52 電話 018-838-5822
問合せ先 (事務局担当施設)	あきた芸術劇場ミルハス 電話 018-838-5822
参加人数	46名（参加施設 26施設）

研修日程・内容			
日時	内容	講師	
3/9 (木)	13:30	開会	岡山芸術創造劇場 技術グループ テクニカル・ディレクター 尾中 孝次 氏
	13:35～ 15:00	講義1 岡山芸術創造劇場ハレノワについて 講義2 舞台の安全管理について	

研修会記録

1 はじめに

この研修会は、劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資することを目的としております。

今回は、今年9月にオープンする「岡山芸術創造劇場ハレノワ」の施設紹介と、舞台関係職員をはじめ劇場の管理運営に携わる者には必須の知識である「舞台の安全管理」についての研修を実施しました。

2 研修内容

講義 1 岡山芸術創造劇場ハレノワについて

講師 尾中 孝次 氏（岡山芸術創造劇場 技術グループ テクニカル・ディレクター）

岡山芸術創造劇場ハレノワは、岡山市の市街地再開発事業による商業・住居等の複合施設として整備された地下2階・地上6階の施設である。

施設機能は、大劇場、中劇場、小劇場、大・中・小練習室、工房、情報・展示ギャラリー等の施設・設備を備えている。また、文化芸術施設として、【魅せる】、【集う】、【つくる】の3つをコンセプトとした活動ができる施設をめざしている。



尾中 孝次氏

講義 2 舞台の安全管理について

講師 尾中 孝次 氏（岡山芸術創造劇場 技術グループ テクニカル・ディレクター）

講師御自身の経験を踏まえ、はじめに、「舞台は危険な場所」として実際にあった危険行為について、仕込み中の事故、稽古中の事故、場当たり稽古での事例について紹介する。

次に、「日常的な劇場でヒヤリ」、「今までの現場を見直す」として、特に死亡事故に遭遇した経験から慣れが極めて危険であり、これまで行ってきた作業の内容や方法を見直し、リスク軽減

に努める必要がある。

次に、「これからの安全を構築する」として、職員が集まって安全についてミーティングをすることで、危険情報の共有ができる。複数人で議論することで、問題点の把握や違った見方の再確認、見過ごしていたことに気が付く。また、リスクを記録する。他館からの危険事例の情報を収集する。等の対策を講じることも重要である。安全は与えられるものだけでは確保できない。自分自身で安全を考えることで他人の安全も図ることができる。

3 研修を終えて

① 事業評価

今回は、ご参加いただいた皆様の反応も良く一定の成果が得られたと思います。

② 当研修会の意義

当研修会については、一般の方々を対象としたものではなく、舞台に携わる人（特に技術スタッフ）向けの研修会であり、舞台技術面での専門的な内容が求められます。

ただ、今回は講師の勤務先であり、今年9月にオープン予定の岡山芸術創造劇場の施設紹介をしていただいたことから、舞台担当以外の職員も視聴することができ、その点でとても有意義な研修になったと考えております。

③ 今後の課題について

当研修会については専門性の高い研修会としての意味合いが強いため、一般市民への貢献という点では難しい面があります。研修の対象となる舞台担当者については、ホール規模、設置されている機材の種類、業務経験年数などにより、知識や技術のレベルにそれ相応の差があり、研修の内容をどのようなものにするのか、一考を要すると思います。併せて、参加者の確保の面から舞台担当職員ばかりでなく、事務、管理運営スタッフに対する研修なども取り入れていく必要があります。

今回は研修会の開催が遅くなり、またオンラインでの実施となりましたが、日頃交流する機会のない中国地域と東北地域のスタッフ交流ができたことは、今後の研修会の開催に向けて大きな収穫になったのではないかと考えております。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（関東甲信越静地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（関東甲信越静地域）
趣旨	劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	令和5年2月2日（木）
会場	埼玉会館 所在地 〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4 電話 048-829-2471
問合せ先 (事務局担当施設)	彩の国さいたま芸術劇場 電話 048-858-5501
参加人数	79名（参加施設 54施設）

研修日程・内容			
日時	内容	講師	
2/2 (木)	13:30～ 14:30	講義Ⅰ LED 機材の普及による、ハイブリッド電源システムの可能性について	東芝ライテック(株) 技術本部制御システム技術部 制御技術第二担当 越野 征史 氏
	14:40～ 15:40	講義Ⅱ LED 化に対応するための照明ネットワーク	ウシオライティング(株) エンタテイメント事業部 機器営業部 東京機器営業課 植月 成美 氏
	15:50～ 17:20	パネルディスカッション 最新 LED 客電のデモンストレーション及び、LED 機材に関する各社の取り組み	パネリスト： 植月 成美 氏 東芝ライテック(株) 尾崎 美雪 氏 パナソニック(株) 役野 善道 氏 (株)松村電機製作所 三浦 正幸 氏 丸茂電機(株) 関根 伸也 氏 司会： 彩の国さいたま芸術劇場 菅沼 翔太 氏

研修会記録

1 はじめに

今回の研修会は LED 照明にスポットを当てて開催した。

現在の舞台照明で主流になっている LED 機材は、これまでのハロゲン電球を使用した照明器具とは、電源・制御方法などが全く別物であり、LED 化をする場合、照明システムそのものをバージョンアップする必要がある。

そこで、LED 化に対応するための電源システム及び制御システムに関する講義、並びに国内メーカーの LED 機材のデモンストレーションと今後の展開に関するパネルディスカッションで構成する研修を実施したものである。

2 研修内容

講義 I LED 機材の普及による、ハイブリッド電源システムの可能性について

講師 越野 征史 氏 (東芝ライテック株式会社 技術本部制御システム技術部 制御技術第二担当)

照明の電源システムについての講義。LED 機材は常に 100%で出力されている直電源を使用するが、従来のハロゲン電球は 0~100%の調光電源を使用している。この二つの電源の詳細についての説明や、調光卓で切り替え可能な東芝ライテックの電源システム「ハイブリッド電源」について説明。

講義 II LED 化に対応するための照明ネットワーク

講師 植月 成美 氏 (ウシオライティング株式会社 エンタテイメント事業部機器営業部 東京機器営業課)

昨今の制御チャンネル数の増加に対応可能な、照明ネットワークシステムについての講義。これまでの制御システムは DMX が主流であったが、一台当たりのチャンネル数の多い LED 機材やムービングライトでは、DMX では対応できなくなっている。その問題を解決し、膨大な制御チャンネル数に対応することが可能な照明ネットワークシステムについて説明。



講義Ⅰ 越野 征史 氏



講義Ⅱ 植月 成美 氏

パネルディスカッション 最新 LED 客電のデモンストレーション及び、LED 機材に関する各社の取り組み

パネリスト：植月 成美 氏 (ウシオライティング株式会社)

尾崎 美雪 氏 (東芝ライテック株式会社)

役野 善道 氏 (パナソニック株式会社)

三浦 正幸 氏 (株式会社松村電機製作所)

関根 伸也 氏 (丸茂電機株式会社)

司 会：菅沼 翔太 氏 (彩の国さいたま芸術劇場)

LED の客席照明「客電」にフォーカスし、国内メーカー各社の調光カーブや、機材の特徴を、実機を用いたデモンストレーションで比較。

デモンストレーション後は、国内メーカー各社と、LED 機材や、制御システムなどについての考え方や課題などに関する意見交換。



3 研修を終えて

① 事業評価

アンケート結果を見ると、講義Ⅰでは、満足度（満足、どちらかといえば満足）が55%、役立ち度（満足、どちらかといえば満足）が69%、そして理解度（満足、どちらかといえば満足）は62%に留まり、あまり良い結果ではなかった。

これはパワーポイントを使用しての講義であったが、参加者に資料がなかったこと、また講師がマスクをして話をしていたために聞き取りづらかったためだと思われる。この点については事務局が事前に確認をし、資料等を用意できればよかったと思われ、反省すべき点である。

一方、講義Ⅱについては、資料が用意され、分かり易い説明であったこともあり、満足度・役立ち度・理解度がいずれも90%を超える高評価であった。

パネルディスカッションにおいても国内メーカーによる客電のデモンストレーションが好評で、面白かったという意見が多数あり、各社のLEDに関する取り組み状況が聴けてよかったという意見も多数あった。満足度・役立ち度・理解度は、いずれも80%を超える評価をいただいている。

総体的な満足度・役立ち度・理解度はいずれも60%台に留まってしまったが、無回答の方がいずれも30%を超えており、回答者の中では満足度は97.5%、役立ち度・理解度100%と高い評価であった。また、自由記述・感想においても、参考になったとの意見が多数あった。

これらのことから、反省すべき点はあるものの、所期の目的は概ね達成できたものとする。

② 当研修会の意義

各施設にとって照明機材のLED化は今後避けて通れない課題となっているためか、参加者は54館79名となり、予想していた以上に多くの施設職員に参加していただいた。

研修会において、講義Ⅰでは、LEDとハロゲンの両方を使用できるハイブリッド電源について、講義Ⅱでは照明のネットワークシステムの導入について、民間企業の最新の取組について説明していただいた。そのほか、国内メーカー各社によるLED客電のデモンストレーションを実施して、実際に目で見て比較する機会を設けるとともに、LED機材に関する各メーカーの取組状況や課題などの意見交換を実施した。メーカー複数社の機器の同時デモンストレーションや意見交換は単体の施設での実施は困難であるが、公立文化施設協会の技術研修会だからこそ、各メーカーの協力をいただき、実現できたといえる。

LED化及びネットワークシステムの導入を考えている施設には改修工事を控えている施設が多く、参考になったという意見が多かった。また、そういう時代が来ていることを気づかされたという施設もあった。

今回の研修会は、LED 機器等に関する最新の状況や課題、さらに各メーカーの考え方や取組状況なども学ぶことができ、今後の大規模改修や機器更新などの検討に大いに役立てることができる内容であり、有意義な研修会を実施することができたものとする。

③ 今後の課題について

今回の研修会におけるアンケートでは、資料が用意されていない講義について、やはり辛口の意見が多かった。講師との事前調整が足りなかったと思われる。技術研修会ということで、照明を専門とする参加者だけでなく、他のセクションからの参加も多数あった。資料を持ち帰り、皆で意見を出し合い、検討しようとしていた施設もあったようである。今回は照明に特化した研修会を開催したため、照明を専門とした職員以外の技術職員には資料のない講義は難しかったかもしれない。今後は参加する側の立場も考え、よりよい研修会の開催を目指していきたい。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東海北陸地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東海北陸地域）
趣旨	各地域において、劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門的知識や技術の習得を図るため、舞台技術者を対象とした舞台技術研修会を実施する。
開催期間	令和5年1月26日（木）～1月27日（金）
会場	石川県こまつ芸術劇場うらら 所在地 〒923-0921 石川県小松市土居原町 710 番地 電話 0761-20-5500
問合せ先 (事務局担当施設)	愛知県芸術劇場 電話 052-971-5609
参加人数	34名（参加施設 18施設）

研修日程・内容

日時	内容	講師	
1/26 (木)	13:00～ 13:20	受付	
	13:20～ 13:30	開講式	
	13:30～ 15:00	講演 「ハイブリッド会議のシステム構成について」	(株)オトムラ 横山 智輝 氏
1/27 (金)	10:00～ 10:30	受付	
	10:30～ 11:30	実技Ⅰ 「ハイブリッド会議の設営・実施」	(株)オトムラ テクニカル チーフマネージャー 新甫 善文 氏 横山 智輝 氏
	11:30～ 12:30	休憩	
	12:30～ 14:30	実技Ⅱ 「ハイブリッド会議の設営・実施」	
	14:30～ 15:00	設営したハイブリッド会議システムのバラシ・撤収作業	
	15:00～ 15:15	閉講式	
	15:15～ 15:45	施設見学会	石川県こまつ芸術劇場 うらら内

研修会記録

1 はじめに

令和4年度文化庁委託事業 東海北陸地域 劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会は令和5年1月26日(木)・27日(金)の2日間にわたり、石川県こまつ芸術劇場うらら(石川県小松市)において開催された。1日目、2日目両日とも会場は小ホールで、1日目は音響メーカーの担当者による講義、2日目はさらに講師を1名加えて、講師2名による実技講習を実施した。

2 研修内容

講演 ハイブリッド会議のシステム構成について

講師 横山 智輝 氏(株式会社オトムラ)

ハイブリッド会議のシステム構成についての座学。内容は下記のとおり。

- ・配信プラットフォームについて、主なものとして Zoom、You Tube があり、前者はミーティング、後者はライブ配信に適している。
- ・Zoom 会議の場合は Zoom ウェビナーを利用すると、参加者を視聴者とパネリストに分類し、それぞれに異なる権限を付与するので管理しやすい。参加者は視聴や、質問ができる。パネリストは会話、画面共有、質問への回答などができる。このため、学会やセミナーに適している。
- ・対して You Tube の場合は、無料であり、なじみのあるツールなので視聴者が見やすいなどのメリットがあり、画質や音質は、You Tube の方が良い。デメリットとしては、配信に手間がかかる、時差が発生するため視聴者とのやりとりに向かない、などがある。このため、演奏会、式典の様子などを伝えることに適している。
- ・会議にあたり、チェックするポイントとして、「映像がスイッチャーに入力されているか」「インターネット接続の確認(回線速度が低くないか)」、「各システムに出力されているか(ホスト、視聴用、座長用)」、「Zoom へのマイナスイオンを作成(Zoom ホストから抜いた音は会場だけに流せるようにする)」、「Zoom の設定を確認(パネリストと視聴者の設定など)」などがある。



講演

実技 I ・ II ハイブリット会議の設営・実施

講師 新甫 善文 氏（株式会社オトムラ テクニカルチーフマネージャー）

横山 智輝 氏（株式会社オトムラ）

実際に音響機材を舞台上に設置し、資料と同様にデジタルミキサーの各チャンネルに機器を接続して実際の Zoom 会議の再現を交えて解説いただいた。

・SDI と HDMI の大きな違いとして伝送距離があり、SDI が 100m 以上の信号伝送が可能だが、HDMI では数m程度とのことであった。また、有線に接続せずに会場の PC もインターネットに接続する場合はハウリングが発生するリスクがあり、トラブル回避のためには、有線接続が望ましいとのことであった。

・複数の話者によるプレゼンテーションやパネルディスカッションなど、多数のマイクを使用する際には、スピーカーの音をマイクで拾いハウリングと呼ばれる不快な音を出してしまったり、マイクがノイズを拾うことにより、音声の明瞭度が下がってしまうことが問題になる。そのため、小さい音を取り除いたり、大きい音と小さい音の音量差を拡大するエキスパンダーや、各入力音声自動的に調整するオートミキサーが利用されるとのこと。

・講師が Mac を持ち込む際の接続トラブルについても質問があった。この際には講師に通常使用している変換や電源を必ず持ってくるよう伝えることや、変換を複数所持して備える等の対策が必要とのことであった。同様にキーノートでプレゼン資料を作成している場合の対策としては、事前に PDF に変換して会場のパソコン（Windows）にデータを入れることが挙げられた。



実技 I ・ II



実技 I ・ II

3 研修を終えて

① 事業評価

コロナ禍以降、会場の入場者数制限や移動制限などから、Zoom 会議やリアル会議との併用となるハイブリッド会議が増加したことから、これらの会議方式への理解を深めるためこの内容となった。

また、支部研修においては、研修会当日が大雪であったことから講師が来県できず、ハイブリッド会議の形式となったため、コロナ以外の要因でも、今後はこの形式の会議が必要との認識を抱くこととなった。

② 当研修会の意義

機器の取り扱いや、トラブルの事例、そのときの対応例などのアドバイスを受けたことにより、今後の施設管理に役立つ研修会となった。

③ 今後の課題について

参加者アンケートにおいては、技術系の研修のため「実践的でよかった」、「施設運営に活かしたい」との意見をいただいた反面、「機器の見せ方の工夫が必要」との意見もいただいた。「理解できなかった」方も一定程度いたため、音響の経験がほとんどない方は研修内容ついていけなくなる傾向がみられた。実技前の座学をより基礎的で平易なものとし、多くの方に理解してもらったうえで、実技講習をする等の工夫が必要と感じた。



実技 I ・ II

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（中四国地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（中四国地域）
趣旨	劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	令和5年1月19日（木）～1月20日（金）
会場	鳥取県立倉吉未来中心 所在地 〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町 212 番地 5 電話 0858-23-5390
問合せ先 （事務局担当施設）	鳥取県立倉吉未来中心 電話 0858-23-5390
参加人数	54名（参加施設 24施設）

研修日程・内容			
日時	内容	講師	
1/19 （木）	13:00～ 13:30	受付	
	13:30～ 13:40	開講式	
	13:40～ 15:00	プログラムⅠ 「劇場・音楽堂における改修計画について」～持続可能なホールの管理計画～	岡山芸術創造劇場 劇場長 空間創造研究所 取締役 草加 叔也 氏
		休憩	
	15:10～ 16:00	プログラムⅡ 「倉吉未来中心の大規模改修工事について」	鳥取県総務部営繕課 課長 下田 悟 氏 参事 山下 哲也 氏
		休憩	
	16:10～ 17:00	プログラムⅢ 「最新の舞台機構設備がもたらすもの」	久留米シティプラザ 舞台技術課 向窪 誠 氏
1/20 （金）	9:00～ 9:30	受付	
	9:30～ 10:30	プログラムⅣ 「劇場・音楽堂における安全管理について」	兵庫県立芸術文化センター 舞台技術部 部長 関谷 潔司 氏
		休憩	
	10:40～ 11:50	施設見学 協力:(株)サンケン・エンジニアリング パナソニック EW エンジニアリング(株)	案内 倉吉未来中心 舞台技術室
	11:50～ 12:00	閉講式	

研修会記録

1 はじめに

中四国地域 劇場・音楽堂等舞台職員研修会は令和5年1月19日（木）～20日（金）の2日間、鳥取県立倉吉未来中心の大ホール、小ホールで実施した。近年、全国の多くのホールで改修工事が行われているなか、ホールを管理する立場として中長期計画の重要性、工事の実施方法（設計、施工業者の選定）について、見識を深めてもらうことを目的とした。

また、近年は舞台業界の安全に対する意識も高まりつつあるが、施設ごとに職員の安全意識には差があるように見受けられる。安全管理の専門家の講義を受けることで、管理者の安全意識の向上はもちろんのこと、最終的に施設利用者にも安全意識を浸透してもらうことも今回の目的とした。

2 研修内容

プログラム1 「劇場・音楽堂における改修計画について」～持続可能なホールの管理計画～

講師 草加 叔也 氏（岡山芸術創造劇場劇場長／空間創造研究所 取締役）

劇場・音楽堂の管理に関わる中長期計画の重要性についての講義を行って頂いた。施設の設備・機器は経年劣化、機能劣化、性能劣化に伴い様々な改修が必要となるが、劇場・音楽堂については社会的要請や利用者の要求が高いため、予防保全として早めに行っていかなければならない。施設の改修工事には多額の費用と休館が伴うため計画的に行う必要があり、ホールの管理・運営者（指定管理者等）、設置・所有者（自治体）、市民・利用者3者の相互理解、協力が必要であることを説明された。



プログラム1

プログラム2 「倉吉未来中心の大規模改修工事について」

講師 下田 悟 氏（鳥取県総務部営繕課 課長）

山下 哲也 氏（鳥取県総務部営繕課 参事）

鳥取県の公立文化施設の中長期保全計画、会場である倉吉未来中心の特定天井改修工事、舞台機構／照明設備改修工事について、管轄である鳥取県総務部営繕課から講義を行って頂いた。特定天井については今回の工事で併せて改修されているが、倉吉未来中心は平成28年に鳥取県中部地震で天井にも被害を受けており、その復旧状況も紹介された。



プログラム 2

プログラム3 「最新の舞台機構設備がもたらすもの」

講師等 向窪 誠 氏 (久留米シティプラザ舞台技術課チーフディレクター)

現場の舞台担当から見た最新の舞台機構設備の紹介と運用方法についての講義を行って頂いた。

最新の舞台機構設備は、様々な演出要求に応える制御・操作システムとなっており、仕込み・バラシ時の安全な運転や高度な演出が可能である。現場では、役割として司令塔を置き、指示命令システムを一本化することで現場が混乱しない様にしている。最後にコロナ禍のためホールの特用として作成した舞台機構、照明、音響を駆使したデモショーの映像で、複雑なバトンの動きを制御できることを紹介された。



プログラム 3

プログラム4 「劇場・音楽堂における安全管理について」

講師 関谷 潔司 氏 (兵庫県立芸術文化センター舞台技術部 部長)

安全管理についての基本的な考え方から、現場の問題まで実例を交えての講演を行って頂いた。安全管理の必要性は人に対して、施設に対して、組織に対してそれぞれ必要であり、人に対しては施設を管理する職員は講習、実習など人的な教育が重要である。施設に対しては施設の日

常点検や機器・設備の予防保全が大切である。組織に対して、現場（利用者）の意識を高め、共有しておくことも必要である。

小規模ホールの場合は公演規模が小さく、主催者が近いが安全管理がしやすいわけではないため、注意が必要。万一事故が起こってしまったら被害者への対応及び組織的対応（再発防止・記録）を忘れてはならないことを説明された。



プログラム 4

プログラム5 施設見学（大ホール／小ホール）

案 内 鳥取県立倉吉未来中心 舞台技術室職員

令和3年に改修した舞台機構設備／舞台照明設備について、参加者は希望のコースに分かれ、それぞれ施設見学を行った。



プログラム5 施設見学①



プログラム5 施設見学②

3 研修を終えて

④ 事業評価

今回のテーマは倉吉未来中心が令和3年に大規模改修を行ったこともあり、「改修工事」にテーマを絞って行った。参加者はベテランから初心者まで年齢層も幅広く、講義内容もやや専門的な部分もあったが、総体的な評価としてはアンケート提出者の大部分は「満足」「やや満足」であった。自由記述欄についても肯定的な意見が多く、舞台技術とは少し離れた内容にもかかわらず、関心の高さをうかがわせた。

② 当研修会の意義

施設の管理者は維持・管理、特に改修工事については施設の利用状況を十分理解し、設置者と協議をしながら計画に進めていかなくてはならない。プログラム1の講義でも説明があったが、文化施設は社会的にも必要な施設であるにもかかわらず、設置者（特に町村）にとっては費用の問題もあるため、積極的な改修がされていないのが実情であると思われる。今回の研修会は管理者側から設置者へ問題提起するきっかけとなればと感じている。安全管理の講義について、参加者には改めて安全についての認識を高めて頂ければと思う。

③ 今後の課題について

講師の皆様のご協力もあり、有意義な研修会となった。中四国の研修会は例年この時期に行っているが、この時期の山陰地方は雪の心配が常にあるため、開催館としては天気について気を揉んでしまうところがあり、無事開催できたことに安堵している。開催の時期については今後の検討課題である。



会場



開講式

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（九州地域）

実施要項	
事業名	令和4年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（九州地域）
趣旨	劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
開催期間	令和4年12月8日（木）～12月9日（金）
会場	石橋文化センター 文化センター共同ホール 所在地 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015 電話 0942-33-2271
問合せ先 （事務局担当施設）	熊本県立劇場 電話 096-363-2234
参加人数	39名（参加施設 20施設）

研修日程・内容			
日時		内容	講師
12/8 （木）	13:30	開講式	
	13:40～ 17:40	プログラム1 高所作業と安全管理	世田谷パブリックシアター 技術部長 熊谷 明人 氏
12/9 （金）	9:30～ 10:35	プログラム2 安全管理について各館の課題を共有する	熊谷 明人 氏 北九州芸術劇場 テクニカルディレクター 中村 国寿 氏
	10:45～ 11:45	プログラム3 舞台技術を担う組織体制を考える	中村 国寿 氏
	11:45	閉講式	

研修会記録

1 はじめに

「労働安全衛生法」が改正され、高所作業の場合、一定以上の高所においてはフルハーネス型の墜落制止器具の使用が義務となった。今回の研修では、高所作業を主に舞台作業での安全管理について世田谷パブリックシアターのノウハウを学び、安全管理の知識を高める。

2日目は舞台技術スタッフの雇用、勤務体制、健康管理などについて、北九州芸術劇場の事例を紹介していただき、舞台技術を担う組織体制について考える。

2 研修内容

プログラム1 高所作業と安全管理

講師 熊谷 明人 氏（世田谷パブリックシアター 技術部長）

プロジェクターを使用した座学とハーネス着用や脚立、安全ブロック使用時の注意点などは実演にて行われた。

- ・安全へのアプローチ
- ・危険予知
- ・墜落制止器具について
- ・世田谷パブリックシアターの安全管理について
- ・落下した場合の救出方法
- ・舞台作業の安全管理と実態の検証
- ・事事故事例



プログラム1



プログラム1

プログラム2 安全管理について各館の課題を共有する

講師 熊谷 明人 氏（世田谷パブリックシアター 技術部長）

中村 国寿 氏（北九州芸術劇場 テクニカルディレクター）

事前アンケートを基に各館からの問題点等を発言してもらいディスカッションを行った。

- ・舞台作業中に事故になった（なりかけた）事例や事故防止のために工夫して取り組んでいること。
- ・安全管理において課題に感じていること。
- ・舞台スタッフの雇用、シフト、員数などで課題に感じていること。工夫して取り組んでいること。



プログラム2

プログラム3 舞台技術を担う組織体制を考える

講師 中村 国寿 氏（北九州芸術劇場 テクニカルディレクター）

プロジェクターを使用し、以下の内容について講義が行われた。

- ・北九州芸術劇場の概要
- ・スタッフ体制
- ・業務概要
- ・人材育成
- ・アンケートでの懸案や課題



プログラム3

3 研修を終えて

① 事業評価

九州地域の高所作業の講習については、主に建築関係の内容であるため、舞台作業に対応した安全管理や器具の使用法など、今回研修を行うことができて参加者からも好評であった。各館が

らの課題については、事前にアンケートを行い、研修会にて各館からの情報を共有することができ、今後の舞台運営に役立てることができると思う。

② 当研修会の意義

安全管理に関して、舞台環境整備の見直しのきっかけとなり、また、安全に催事運営するための知識向上により、利用者の安心、安全に繋がる研修会になった。

また、各館からの情報を共有することで、今後の利用者との打ち合わせ等に役に立ち、より使いやすいホールに繋げることができると思う。

③ 今後の課題について

・参加人数について

ホールの利用率がコロナ前に戻りつつあり、舞台技術者を対象とする場合に10月～12月は繁忙期であり時期を考慮する必要があると思う。

・研修内容について

対象者の多くが大・小ささまざまな劇場・音楽堂の職員であり、現在は舞台技術者委託が多く、共通の話題を題材にした研修内容にすることが難しい。